

全国高等学校総合文化祭“2015 びわこ総文”プレ大会『生徒交流会』報告

びわこ総文 美術・工芸部門 生徒交流会担当
滋賀県立膳所高等学校 教諭 山崎仁嗣

1. はじめに

2015年夏に滋賀で行われる“びわこ総文”の前年度プレ大会となる「第35回滋賀県高等学校総合文化祭（高総文祭）美術・工芸部門」（以下、プレ大会）を、2014年12月19日～21日に開催しました。本大会中に行う『生徒交流会』は、“対話型鑑賞”の方法を用いた生徒どうしの交流を目指しています。この大会全体や生徒交流会を担う生徒の育成は、京都造形芸術大学アート・プロデュース学科福のり子先生、京都大学総合博物館塩瀬隆之先生をはじめ、多くの方々のご協力を頂きながら進めて参りました。

プレ大会ではさまざまな課題も見受けられましたが、おおむね無事に終了することができました。これまでのご支援にお礼申し上げますとともに、以下、その様子を報告いたします。

2. プレ大会概要

プレ大会では、本大会と同じ会場である滋賀県立近代美術館に、滋賀県内美術部生徒の約500点の作品を展示しました。大会前日の12月19日には滋賀県立近代美術館で、作品の展示作業や、例年の高総文祭の取り組みの一つである『作者への手紙』を書き作者へ送る活動、そして『生徒交流会』のための準備活動を行ないました。

大会初日12月20日には、野洲文化ホールで開会行事や生徒によるライブペインティングのアトラクション、作品講評会・講演会などがありました。また、翌日に行う『生徒交流会』について、交流会担当生徒が寸劇を交えて説明しました。

大会二日目12月21日には、滋賀県立近代美術館で生徒交流会を行ないました。『生徒交流会』は、1つの作品を15人ほどのグループで話しあう「対話型鑑賞会」（40分間）、その意義についてお話し頂く京都造形芸術大学の伊達隆洋先生によるレクチャー（40分間）、6人ほどのグループでメンバーの作品を巡る「語りあう交流会」（50分）を組み合わせて行いました。これと並行して教員向けには、京都造形芸術大学の福のり子先生によるレクチャーを行ない、この活動の目的の共有を図りました。

【プレ大会2日目日程】12月21日（日）13:00～15:35 会場：滋賀県立近代美術館

開始	終了	参加生徒		顧問
		第1～12組	第13組～24組	
12:30	13:00	受付		
13:00	13:40	対話型鑑賞会（展示室）	伊達先生によるレクチャー（講堂）	どちらかのグループとともに行動
		《入れ替え》10分		
13:50	14:30	伊達先生によるレクチャー（講堂）	対話型鑑賞会（展示室）	
		《各組がABCの3班に分かれる》15分		
14:45	15:35	語りあう交流会 （24組×3班=72班別）		福先生による 教員向けレクチャー
15:35	16:00	アンケート記入、交流会担当生徒ミーティング		

3. プレ大会まで

作品について語りあう『生徒交流会』の実施や、びわこ総文美術・工芸部門のさまざまな取り組みを考

えていくために、部門実行委員会では2014年3月から“生徒育成プログラム”というセミナーを開いてきました。プレ大会までに計6回のセミナーを開き、大会や生徒交流会の準備を通して、対話型鑑賞時のナビゲーションカや、さまざまなコミュニケーションカの育成につながる活動を行ないました。セミナーは、なかなか各校の都合が合わず多くは実施できませんでしたが、プレ大会間際の12月6日に行った‘第6回セミナー’では、教員と生徒のみで、プレ大会本番を想定した十数人での対話型鑑賞を、なるべく多くの生徒がナビゲーション役を務めて行うところまで、ようやく到達することができました。

4. プレ大会『生徒交流会』

大会前日の12月19日には交流会担当生徒で準備作業を行ないました。「対話型鑑賞」で用いる作品を、それぞれの組を担当してナビゲーション等を行なう3人の生徒で選び、その作品を用いて対話型鑑賞の練習をしました。

大会2日目12月21日は、滋賀県立近代美術館で『生徒交流会』を行いました。午前中に最終リハーサルを行なったあと、いよいよ午後からは約100名の交流会担当生徒が県内の参加生徒約400名を迎えての本番となりました。

参加生徒からは「長い時間グループで作品について対話をするのが無かったので、とても新鮮で楽しかった。なるほどと思う所、すごいこと考えるなあと思う所がとても多くて、また対話型鑑賞をしたいと思った」という感想もあり、おおむね好評でした。

交流会担当生徒は、鑑賞活動のナビゲーションや会場運営などに奮闘しました。生徒交流会を終えて美術館講堂に集まった担当生徒の“ほてった”顔つきは大変印象的でした。ひとりひとりそれぞれが思うこと、誰かに話したいことがあるような、そして、何か大きなものをつかんだように見受けました。

【交流会担当生徒の感想】

- ・交流会目前のとき、沈黙したらどうしよう、つまらないと思われてしまったらどうしようと思った。けれど、交流会をみんなが参加できていて、ミスすることもあったが、本当に楽しかった。また、本大会では、もっともっといっしょに楽しんでいきたい。
- ・ナビゲーションに緊張していたけれど、3人でやるんだし！！と勇気をもっていざご対面。やりはじめると楽しくて仕方がない！！終わるのが残念でした。こんなに楽しいものにどうしておびえてたのか不思議なくらい！！次が楽しみです。
- ・今までこうやってだれかと思いを共有したりするということが絵ではなかったので、新鮮ですごく楽しかったです。とくに、語りあう交流会が楽しくて、時間がすぎるのがあつという間でした。すごく笑いありできて、またやりたいと思えるほどでした。今回こんないい経験ができて得るものが多くて充実できていたと思います。またやりたいです！！
- ・思っていたよりナビゲーター（サブだったが）が楽しくて驚いた。そして、もし失敗してもお客さんが助けてくれることがわかり、安心した。心が軽くなった。本大会が今までより楽しみになった。あと、ナビとサブナビの連携の大切さを学んだ。最終目的はみんなで楽しめるようになることです。
- ・苦しいことも不安も沢山ありましたが、とても楽しい経験でした。ありがとうございました！
- ・セミナーをずっと受けてきたけど、本当に上手くできる自信はまったくなくて、お屋にメンバーが集めた時も「この人たちと共に話すなんてできるか？？」とすごい不安でした。でも一緒に作品を見て、ぼつぼつと話してみると、共感できることと「えっ！？」と思うこととあって、これはなんだか面白いかもしれない……！と思えました。そう思えてからは、セミナーや練習で学んだことを生かす余裕もできて、とても良い経験ができたと思います。本当に良い思い出になりました。

5. プレ大会についてのアンケート結果から

プレ大会の参加生徒と担当生徒へのアンケート結果（以下）からは、回答者のおおよそ9割の生徒が、

プレ大会の生徒交流会に肯定的な答えをしていることがわかります。ただ、参加生徒と担当生徒の「よかった」「まあまあよかった」の割合の数値が異なるところに、ナビゲーションの仕方や運営の方法に満足していない、もっとよくできると生徒達自身が思っていることが感じられました。これからの‘伸び代’を示しているように思いました。

■参加生徒（回答：272名）

	対話型鑑賞		レクチャー		語りあう交流会		全体	
	人	%	人	%	人	%	人	%
よかった	195	72	200	74	211	78	606	74
まあまあよかった	66	24	68	25	58	21	192	24
あまりよくなかった	10	4	2	1	1	0	13	2
よくなかった	1	0	0	0	2	1	3	0
	272		270		272		814	

■担当生徒（ナビゲーター・サブナビゲーター・タイムキーパー役：回答44名）

	対話型鑑賞		語りあう交流会		全体	
	人	%	人	%	人	%
よかった	19	43	22	50	41	47
まあまあよかった	21	48	17	39	38	43
あまりよくなかった	4	9	5	11	9	10
よくなかった	0	0	0	0	0	0
	44		44		88	

6. その後

プレ大会後の1月31日には、午前中に生徒交流会第2回実行委員会議を行ないました。プレ大会生徒交流会の参加者や担当生徒へのアンケート結果をもとに、交流会をさらに良くするために皆で話しあいたい“テーマ”をまとめました。「アンケートを見ると本当に良い結果で、うれしく思った。ただ、担当生徒である私たちの中では“まだまだ”だなあと感じる部分があったので、さらに改善していきたい。」

そしてその日の午後から開いた‘第7回セミナー’では、それらのテーマを本大会へ向けた課題として話しあい、その解決策を考えていきました。「自分たちでテーマを決めて話しあうのは充実していた。具体的に進めるには、現実的な要素も調べる必要があると感じた。」「一つの問題について話し合うだけでも、なかなか楽しかった。プレ大会で学んだことが今回で生かされた気がする。」「なかなか答えがでないような難問がいくつもあったけど、やっぱり多くの人が集まると良い答えがでてきて、いろいろな人と意見を交わすのは改めて大切だなと思いました。」

2月11日の第3回交流会実行委員会議は、前回のセミナーで出た意見を整理集約したうえで、具体的な案を考えていきました。「すごく濃い話しあいをして、ぐいっと進んでわく わくした」一日となりました。

7. まとめ

もともとは県内3校で行っていた年に一度の合同展覧会で、作品を前に語りあう形の交流会を10年ほど前に始めたことがきっかけです。それを元に滋賀県の高総文祭で実施していく中で、さまざまな方からのご理解やサポートを頂くことができ、今、全国高総文祭の生徒交流会へつながろうとしています。

ブレ大会を経て、生徒交流会を担当した生徒たちの成長ぶりには目を見張るものがあります。作品鑑賞時のナビゲーションでは少しずつ度胸もついて(?)なんとか皆で楽しもう、と努める様子が見受けられました。交流会のための会議や準備では、長い時間話しあって、いろいろな意見を尊重して考える、そのしんどさも含めて楽しんでいる雰囲気さえ感じます。安心して素直に自分の思いを出せる場だという認識が定着してきたのでしょうか。

そして何より、物事をさまざまな方向から見たり考えたり、いろいろな人と協調して事に当たる醍醐味を感じはじめているようで、そこが大変嬉しく、頼もしく思います。もっとナビゲーションする力を向上させたい、もっともっと工夫して自分たちで楽しい本番を作り上げたいというモチベーションと行動の原動力になっているようです。

びわこ総文、対話型鑑賞を通した壮大な生徒育成プロジェクトが行きつく先に一体何が見えるのでしょうか。すでに残り半年を切った本番の7月29日には、“すべて任せた”という涼しい顔つきで彼らの様子を見守ることができるように、我々担当教員は今すこし何とか踏ん張って、やり尽くす他ないかなあ……と思うこの頃です。

滋賀の生徒達、そして全国から参加する400名を越える美術に懸ける高校生のためにも、今後ともご理解とご協力のほどお願い申し上げます。